

# 孫の手通信



— 第31号 —

平成26年5月8日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

## 新年度予算が成立

3月4日に開会された第1回一宮町議会定例会は、平成26年度の予算案の他全ての議案を可決し閉会しました。

町の平成26年度一般会計当初予算は、今春に新しい役場庁舎が完成するに伴う建設費減額が主な要因で前年度当初予算比2億7400万円、6・3%の減少となる40億9300万円となりました。

歳入は町税が1888万円、1・5%の増加となる13億618万円となり、地方交付税は前年度と同じ10億7000万円を見込みました。一方、右肩上がり増加を続ける社会保障費と老朽化が進む公共施設の改修費等で2億5000万円の財源不足が発生したため、財政調整基金を取り崩して予算を編成しました。厳しい財政状況の中で、高校3年生までの医療費助成など「新しいまちづくり」を実現する施策に重点配分しました。

## 今年はいんな事業を行います

楽しく子育てができる町

○子ども医療費助成 3893万円

医療費の助成を高校1年生から3年生まで拡大して子育て世帯を応援します。

○一宮小学校・東浪見小学校図書室エアコン設置事業 633万円  
勉学に励む子どもたちが学習に集中できる環境を整えます。

○中学生海外ホームステイ研修事業 249万円

昨年度に引き続き中学生のホームステイ研修を実施して子どもたちの国際理解と語学力の向上を図ります。ホームステイ先はオーストラリアのブリスベンで中学2年と3年を対象とし、長生村、白子町と共同で実施します。

若者が集う元気な町

○商店活性化補助事業 310万円

消費税増税による景気の冷え込みを防ぐため、商工会が行う1割のプレミアム付き商品券発行を助成して商店街の活性化を図ります。

○一宮海岸広場整備事業 3038万円

昨年のトイレと駐車場の整備に引き続き、国民宿舎跡地に芝生の多目的広場と遊具を設置して子供からお年寄りまで楽しめる広場を完成させます。

いつまでも住み続けたい町

○まごころの見守り訪問事業 324万円

高齢者世帯や独居老人世帯を定期的に訪問してお年寄りが安心して暮らせるまちづくりを進めます。

○外出支援事業(新にこにこサービス) 710万円

高齢者と障害者の方を対象に送迎サービスを行って町内の移動を容易にできるようにします。

○肺炎球菌ワクチン接種事業 63万円

65歳以上を対象にワクチン接種を助成して肺炎球菌による肺炎の発症及び重症化を防ぎます。

安全安心な町づくり

○自主防災組織設置補助事業 150万円

各自治区で新たに自主防災組織を立ち上げる際の費用を、1団体65万円を上限として助成します。現在、一宮町には宮原区、矢畑区、綱田区、6区にそれぞれ自主防災会が組織されています。

○役場新庁舎建設事業 1億2231万円

新庁舎完成後に旧庁舎を解体し、跡地に駐車場を整備します。9月末の完成予定です。

○振武館天井落下対策工事 1175万円

振武館は地域のスポーツ活動の場であり、災害時には避難所としての役割も果たしています。昨年耐震診断を実施した結果、耐

震性に問題があることが判明したために実施するものです。

○排水ポンプオーバーホール等事業 6651万円

設置から10年以上が経過した中央排水処理場の排水ポンプ設備の分解・清掃・再組立てを行って大雨時に排水能力を十分に発揮できるよう整備します。

○天道跨線橋通り改良事業 3150万円

宮原交差点から陸橋を渡って海岸に通じる天道跨線橋通りは交通量が非常に多く危険なため、歩道を設置して歩行者の安全を確保します。

## わかりやすく迅速な役場へ

4月から役場の組織が大きく変わりました。税務課と住民課を税務住民課に、都市環境課と産業観光課の農業部門を事業課に、産業観光課の商工観光部門をまちづくり推進課にそれぞれ統合しました。

今後一層厳しさを増す財政事情の中で、多様化する行政課題やこれまで以上の住民サービスの向上に対応するため、わかりやすく迅速な組織へと見直しを行ったものです。

## 5月7日から新庁舎で業務開始

昨年6月から工事を進めてきた新庁舎が3月31日に完成しました。その後、ゴールデンウィークの連休中に引越作業を行い、5月7日から新庁舎で業務を開始しました。

1階に税務住民課と会計課、2階に事業課とまちづくり推進課、3階に総務課、4階に議会と会議室をそれぞれ配置しました。災害時には3階に災害対策本部が設置され、4階と屋上が津波一時(いつとき)避難場所となります。

## ウミガメ保護条例を制定

3月議会で一宮町ウミガメ保護条例が制定され、4月1日から施行されました。

一宮の海岸はアカウミガメが産卵する北限といわれており、昨

年は「一宮ウミガメを見守る会」によって28箇所の産卵が確認されました。

アカウミガメは一宮町の豊かな自然環境を構成する貴重な野生動物であり、学術的にも高い価値を有するため、町と町民が一体となって保護するために条例を制定したものです。

この条例によってウミガメの捕獲や卵の採取などの行為が禁止されると共に、町から委嘱された保護監視員が海岸パトロールなどの保護活動に当たります。ウミガメがやって来るといいう一宮町の豊かな自然環境の素晴らしさを全国に発信して、定住人口の拡大と観光の振興につなげていきたいと考えています。

## 九十九里トライアスロン開催

9月20日、日本最大級となる参加者2000人規模の「九十九里トライアスロン2014」が一宮海岸をメイン会場にして開催されます。

外房地域を活性化させようという千葉県の全面的な協力の下、一宮町、長生村、白子町、九十九里町、大網白里市、東金市の6市町村が連携して開催することになったものです。

トライアスロンはスイム（水泳）、バイク（自転車ロードレース）、ラン（長距離走）の3種目を連続して行う耐久競技で、オリンピックではシドニー大会から正式競技に採用され、健康志向の高まりを背景に近年は競技者人口を増やしています。

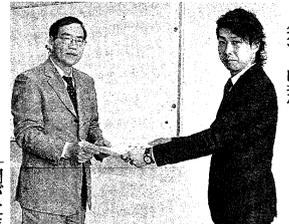
実行委員会の会長に一宮町長、名誉会長に森田健作千葉県知事、大会アドバイザーにロンドンオリンピック日本代表の細田雄一選手、大会アンバサダーにファッションモデルの道端カレンさんがそれぞれ就任して大会を盛り上げます。

この大会を成功させ、内房の「ちばアクアラインマラソン」に比肩しうる外房の人気イベントに育てていきたいと思ひますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

孫の手通信は新聞折り込みでお届けしています。お手元に届かない方には直接お届けいたしますので「ご連絡下さい」。

玉川孫一郎と歩む会

玉川会長から感謝状を受ける毎日新聞上総二宮販売所の石橋代表（右）町長挨拶



人命救助に貢献 販売所に感謝状  
一宮町の地域支援 ネットワーク会議「会」  
一宮町の地域支援 ネットワーク会議「会」女性役員は病院に連れられ、高齢女性が寝たきりになってしまったという。通報。部屋には病気がたまっていて、警察と町に通報。部屋には病気がたまっていて、警察と町に通報。部屋には病気がたまっていて、警察と町に通報。

## 沿岸自治体が初開催

太平洋を望みながらトライアスロンを走らそう。一宮町や白子町など千葉県九十九里沿岸の自治体は9月19・21日、「九十九里トライアスロン」を初開催する。国内大会では屈指の規模となる2000人を募集。東日本大震災後、外房地域の観光客が大きく

## 九十九里でトライアスロン

落ち込む中、観光振興につなげる。競技は20日に実施。五輪と同じ距離で競う。波の影響を避けて一宮川の河口付近で1.5kmを泳いだ後、九十九里沿岸の有料道路を自転車車で40分、一宮町内で10分を走ってゴールする。終了後は浜辺でパーティーを開くほか、21日にはサーフィンをイベントなど

2000人募集 9月19～21日



九十九里浜を望みながら海風の中を走る。人気スポットとして知られるが、都心から車で1時間半と近いことからトライアスロンの会場としても注目。通常、日曜日の開催が多いが、土曜日に実施する。大会を企画するアスロニア（東京）渋谷は「日曜日（東京）イベントや周辺観光を楽しんでほしい」と期待する。

平成26年2月20日 毎日新聞

平成26年3月27日 日本経済新聞

最近の新聞より

平成26年3月3日 毎日新聞

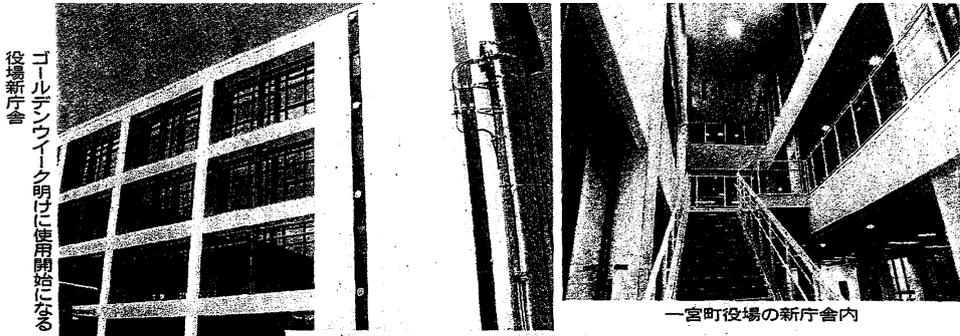
## 「ウミガメ条例」提案へ

### 一宮町保護と監視目的

アカウミガメの上陸。産卵が増えていることを確認している。同様の条例は2007年にいすみ市が県内初めて制定している。アカウミガメの上陸。産卵が増えていることを確認している。同様の条例は2007年にいすみ市が県内初めて制定している。アカウミガメの上陸。産卵が増えていることを確認している。同様の条例は2007年にいすみ市が県内初めて制定している。

【吉村建二】

## 一宮町役場新庁舎が完成

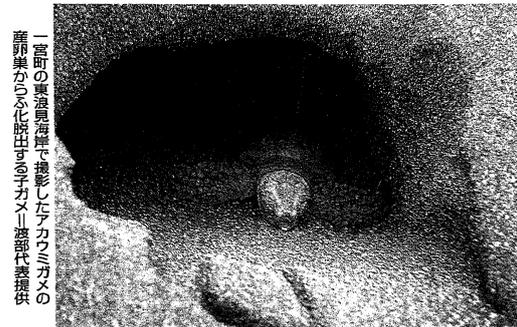


一宮町役場の新庁舎内

## 防災拠点や避難所機能 連休明け使用開始

老朽化などにより建設が進められていた一宮町の新役場庁舎が完成し、5月の連休明けに使用開始となる。東日本大震災を教訓に、耐震もろい10階の津波にも耐えられる構造など災害に強い庁舎となっている。新庁舎は、現在の庁舎脇に建てられ、鉄筋コンクリート造り4階建て。延床面積は約2300平方メートル。建設はコストの削減や事業期間の短縮化を図るため、設計と施工を一括発注し、デザインビルド方式を採用された。総事業費は7億5千万円に上る。このうち6億千万円を庁舎建設基金で賄い、残りは7000万円が地方債、2500万円が一財源となっている。現庁舎は1997年に建設され、97年の診断で耐震不足が指摘された。東日本大震災の時に災害対策本部

を庁舎内に設置できなかったことから、新庁舎には3階に災害対策本部を設置できるスペースと、4階部分には災害時500人を収容できる一時避難所も設けられた。また、約16メートル上層は10階の津波にも耐えられる構造となっている。また、約16メートル上層は10階の津波にも耐えられる構造となっている。また、約16メートル上層は10階の津波にも耐えられる構造となっている。



一宮町の職員が海岸で撮影したアカウミガメの産卵巣から孵化する子ガメ。市役所代表提供